

書評

『賢治鳥類学』

赤田秀子、杉浦嘉雄、中谷俊雄著 1998年5月
(株)新曜社 定価(本体) 3,300円

事務局 箕輪 多津男

宮沢賢治の数々の作品を読み解く上で、大変重要な存在としてあげられるのが、実に頻繁に登場する様々な動物たちである。中でも、殊に象徴的かつ多様な現象として、読者の心に飛び込んでくるのが鳥たちである。

そしてここに、賢治作品における鳥類事典とも言べき一冊の画期的な書物が生まれた。その名も『賢治鳥類学』である。

著者は、それぞれ宮沢賢治研究会や宮沢賢治学会によって結ばれ、かつ、野鳥観察においても十分なキャリアを誇る三名の方々である。もちろんその中の一人は、本誌でもお馴染みの全国愛鳥教育研究会の杉浦嘉雄副会長である。

本書は、約400ページにも及ぶ大著となっているが、大変読みやすく書かれている。内容の特徴として画期的なことは、賢治作品に登場する鳥類を網羅している点と、そしてそれぞれの鳥に関する現実の生態から論を進めている点である。実に丹念な記述がなされており、単に鳥の生態を知ることだけを目的に本書を繙いたとしても、十分それに応えてくれるだけの内容となっている。

構成面では、登場する鳥類を大きく「身近な鳥」「家禽類その他」「水辺の鳥」「山野の鳥」の4つに分け、原則として一項目につき一鳥種を扱う形で、それぞれが独立した論として完結している。従って興味の趣くままに、どの項から読み始めても楽しむことができる。また、全編にわたって、鳥類の登場する賢治作品の原文からの引用が数多くなされており、逆にそれを元に、改めてそれらの作品を読み直してみることも一興であろう。

さらに巻末には、「宮沢賢治とバードウォッチング」と題して、賢治の全作品及び草稿群に登場する鳥類が、五十音順にリストアップされており、鳥種をキーワードとして原本をあたる際の有力なガイドとなっている。

巻頭にある16枚分の美しい口絵、及び本文の挿絵

は、「野鳥シート」でもお馴染みの松原巖樹画伯の手によるものであり、本書に一層の彩りを与えている。

宮沢賢治の世界に生息する鳥たちは、現実の鳥そのものの生態を有するものや、心象世界独自の幻想的な生き様を見せるものなど、虚実混淆の現象をそこに創造している。本書を繙きながら賢治と鳥の関係について思いを寄せる時、そこに新たな世界への扉が開かれるのを、読者の誰もが実感するに違いない。

